



2023年11月10日

各位

会社名 徳倉建設株式会社
代表者名 代表取締役社長 徳倉 克己
(コード：1892、名証メイン市場)
問合せ先 取締役経営管理本部長 郡司 哲夫
(TEL. 052-961-3271)

2024年3月期第2四半期累計期間業績予想値と実績値との差異 および通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2023年5月12日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2024年3月期第2四半期累計期間業績予想数値の修正 (2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 連結

単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	28,000	200	250	200	95円74銭
実績値 (B)	25,147	△136	△53	△73	△35円24銭
増減額 (B - A)	△2,853	△336	△303	△273	
増減率 (%)	△10.2	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2023年3月期 第2四半期)	25,286	△146	△80	△153	△73円65銭

(2) 個別

単位：百万円

	売上高	経常利益	四半期 純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	16,000	200	140	67円01銭
実績値 (B)	14,421	△81	△55	△26円50銭
増減額 (B - A)	△1,579	△281	△195	
増減率 (%)	△9.9	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2023年3月期 第2四半期)	13,412	145	155	74円69銭

2. 2024年3月期通期業績予想の修正（2023年4月1日～2024年3月31日）

(1) 連結

単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	70,000	1,600	1,650	1,150	550円48銭
今回修正予想（B）	66,000	1,200	1,200	800	382円13銭
増減額（B－A）	△4,000	△400	△450	△350	
増減率（％）	△5.7	△25.0	△27.3	△30.4	
（ご参考）前期実績 （2023年3月期）	58,523	609	649	590	282円68銭

(2) 個別

単位：百万円

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	42,000	1,000	700	335円07銭
今回修正予想（B）	38,000	600	450	214円95銭
増減額（B－A）	△4,000	△400	△250	
増減率（％）	△9.5	△40.0	△35.7	
（ご参考）前期実績 （2023年3月期）	33,607	851	764	366円17銭

3. 修正の理由

2024年3月期第2四半期 個別

当第2四半期の完成工事高は年度当初の予想値16,000百万円に対し、1,579百万円減少して14,421百万円となりました。主な原因は工事の着工の遅れや工期の延伸によるものです。完成工事利益率の改善もありましたが、完成工事高の減少及び人件費等の経費の増加により、当第2四半期の経常利益は予想値200百万円に比べ281百万円減少し、81百万円の経常損失となりました。また、四半期純利益は予想値140百万円に比べ195百万円減少し、55百万円の四半期純損失となりました。

2024年3月期第2四半期 連結

当第2四半期連結累計期間の売上高は、当社及び連結子会社の完成工事高が予想値に比べ減少したことを主な原因として、予想値に比べて2,853百万円減少し、25,147百万円となりました。売上総利益率の改善もありましたが、人件費等の経費の増加により136百万円の営業損失となりました。以上により、経常損失は53百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は73百万円となりました。

2024年3月期通期 個別

2024年3月期通期の売上高は、工事の着工の遅れや工期の延伸などにより、予想値に比べて4,000百万円減少し、38,000百万円となる見通しです。一方、利益面では完成工事高の減少に伴う利益の減少、及び人件費等の経費の増加により経常利益は年度当初の予想値1,000百万円に対し400百万円減少し600百万円、当期純利益は250百万円減少し450百万円と予想しております。

2024年3月期通期 連結

2024年3月期通期の個別業績予想を上記のとおり修正したことを主な原因として、売上高は当初業績予想に対して4,000百万円減少の66,000百万円と予想しております。また連結子会社においても人件費等の経費が増加する見通しであり、これにより営業利益は当初予想値から400百万円減少の1,200百万円、経常利益は450百万円減少の1,200百万円、親会社株式に帰属する当期純利益は、350百万円減少の800百万円と予想しております。

以 上